

平成9年12月22日
気象庁産業気象課
予報部
観測部

配信資料に関する技術情報（気象編）第30号

－今後の配信資料の改善等の計画について－

今後、実施する予定の配信資料の改善は、気象業務支援センターが行なうオンライン配信サービス（全国版）（以下「全国版」と略す。）とオンライン配信サービス（地方版）（以下「地方版」と略す。）において、以下のとおりです。

1 アメダスデータの電文形式の変更について

（配信資料に関する技術情報第7号、第27号関連）

対象回線：東京及び仙台管内の地方版の一般気象データ回線

（現在、東京、名古屋、新潟、水戸、仙台から配信しています。）

実施日時：新形式（BUFR報）の配信開始

平成10年3月11日12時（中央標準時）

旧形式（A/N報）の配信終了

平成10年4月下旬

なお、配信開始時刻は数時間程度前後する場合があります。

配信終了日時は決まり次第お知らせします。

対象電文：SYyAii → ISyAii, ISyPii

変更事項：配信資料に関する技術情報第7号（平成8年9月13日）及び第27号（平成9年9月22日）でお知らせしましたとおり、現在、配信しているA/N形式のアメダス・データ（電文ヘッダー：SYyAii（iiは、東北が11、関東甲信が16、東海が21、北陸が26））を廃止し、新たにバイナリー形式（BUFR報：詳細は第27号に掲載）の電文を配信します。

なお、同様の変更は来年度、札幌管内で、それ以降も当庁のL-ADESSの更新時に合わせて順次実施する計画です。

2 アメダスデータの一部電文の領域拡大について

(配信資料に関する技術情報第7号関連)

対象回線：東海地方の地方版の一般気象データ回線

(現在、名古屋から配信しています。)

実施日時：平成10年5月下旬

なお、実施日時の詳細は決まり次第お知らせします。

対象電文：ISYA21, ISYP21 (現行のSYYA21)

変更事項：現在、東海地方に配信しているアメダス・データは領域が狭いため、現行の領域に京都府、大阪府、兵庫県内のデータを追加することとなりました。これに伴い技術情報第7号の別紙は別添1のとおりとなります。

3 数値予報GPV等の要素等の充実について

(1) 全国版の数値予報GPVの配信要素等の充実

(配信資料に関する技術情報第10号関連)

対象回線：全国版

実施日時：平成10年3月25日00UTC初期値分

対象電文：KUR@ii → VUR@ii

KVR@ii → VVR@ii

KKGW50 → VKGW50

KKRA50 → VKRA50

KKRB50 → VKRB50

KQA@ii (ヘッダーの変更はありません。)

変更事項：昨年度の東京L-ADESSの更新に伴い実施した数値予報GPVの配信要素の拡充を、今年度は支援センターの全国版でも適用します。詳細は別添2のとおりです。

また、L-ADESSの更新に伴い、数値予報GPV (RSM上層及びRSM地上) 及び天気予報ガイダンスの配信領域を拡大することとしています。現在、進めている更新では別添3の領域で配信することとしています。したがって、全国版のサービスでは、平成10年3月25日から、この拡大した領域で配信します。

なお、来年度の札幌L-ADESSの更新以降、配信領域が若干の変更となる場合もあります。変更する際には、別途事前にお知らせします。

(2) 仙台管内の地方版の数値予報G P Vの配信要素の充実

(配信資料に関する技術情報第 10 号関連)

対象回線：仙台管内の地方版の一般気象データ回線

実施日時：平成 10 年 3 月 2 日 0 0 U T C 初期値分

対象電文：KUR@ i i → VUR@ i i

KVR@ i i → VVR@ i i

変更事項：昨年度の東京L - A D E S Sの更新に伴い実施した数値予報G P Vの配信要素の拡充を、今年度は仙台管内の地方版のサービスで適用します。詳細は別添 2 のとおりです。

4 全球モデルの 00UTC 初期値分の提供開始について

(配信資料に関する技術情報第 6 号関連)

対象回線：気象業務支援センター (全国)

実施日時：平成 10 年 5 月下旬

実施日時の詳細は決まり次第お知らせします。

変更事項：配信資料に関する技術情報第 6 号 (平成 8 年 9 月 13 日) でお知らせしましたとおり、平成 8 年 10 月 16 日より、12 U T C 初期値分の全球モデルの配信を開始しました。今般、00 U T C 初期値分についても、配信するよう要望がありましたので、平成 10 年 5 月下旬より提供を開始します。

電文ヘッダーは、12 U T C と同様です。ただし、予報時間は 72 時間までです。

なお、全球モデルについては、現行の 24 時間間隔での提供を 6 時間間隔で提供するよう要望されていますが、この改善を実施すれば、現行の気象庁と気象業務支援センター (全国版) 間の回線 (64 K b p s) では、現在配信しているデータに多大な遅れが予想されます。このため、当面は 6 時間間隔の配信はしないこととします。

5 飛行場警報等の改善について

(配信資料に関する技術情報第 29 号関連)

対象回線：全国版及び地方版の一般気象データ回線

実施日時：平成 10 年 3 月 2 日 0 0 U T C

対象電文及び変更事項：

配信資料に関する技術情報第 29 号 (平成 9 年 12 月 17 日) のとおり。

- 6 監視用レーダー・データの電文形式の変更について
(配信資料に関する技術情報第4号及び第23号関連)
対象回線：仙台管内の地方版のレーダー系データ回線
(現在は、仙台及び青森から配信)
実施日時：平成10年3月2日01UTC
変更事項：配信資料に関する技術情報第4号(平成8年9月4日)及び第23号(平成8年8月22日)のとおり。
- 7 今年度の第2回目の細分区域の変更について
(配信資料に関する技術情報第16号関連)
配信資料に関する技術情報第16号(平成9年3月14日)でお知らせしましたとおり、予報及び注意報・警報の細分区域の変更時期を年2回とし、3月1日及び11月1日に実施することとしています。
平成10年3月1日に予定していました今年度第2回目の細分区域の変更は、該当する事項がありませんので実施いたしません。

アメダスデータの配信領域

地方予報区	配 信 領 域 に 含 ま れ る 府 県	
	地 方 予 報 区 内 の 府 県	周 辺 の 府 県
北 海 道	北海道	青森県
東 北	青森県, 秋田県, 岩手県, 宮城県, 山形県, 福島県	北海道（渡島支庁及び檜山支庁に限る）, 新潟県, 茨城県, 栃木県, 群馬県
北 陸	新潟県, 富山県, 石川県, 福井県	山形県, 福島県, 栃木県, 群馬県, 長野県, 岐阜県 滋賀県, 京都府
関 東 甲 信	茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 東京都, 千葉県 神奈川県, 長野県, 山梨県	福島県, 新潟県, 富山県, 岐阜県, 愛知県, 静岡県
東 海	静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県	東京都, 神奈川県, 山梨県, 長野県, 富山県, 石川県, 福井県, 滋賀県, <u>京都府</u> , <u>大阪府</u> , 兵庫県 奈良県, 和歌山県
近 畿	滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県	愛知県, 岐阜県, 三重県, 福井県, 鳥取県, 岡山県 香川県, 徳島県
中 国	岡山県, 広島県, 島根県, 鳥取県	兵庫県, 香川県, 愛媛県, 山口県
四 国	香川県, 徳島県, 高知県, 愛媛県	和歌山県, 大阪府, 兵庫県, 岡山県, 広島県, 山口県, 福岡県, 大分県, 宮崎県
九 州 北 部	山口県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 熊本県	高知県, 愛媛県, 広島県, 島根県, 宮崎県, 鹿児島県
九 州 南 部	宮崎県, 鹿児島県	高知県, 愛媛県, 大分県, 熊本県, 長崎県, 沖縄県（宮古支庁及び八重山支庁を除く）
沖 縄	沖縄県	鹿児島県

※下線部が今回追加する領域

平成9年12月22日作成
平成10年5月下旬実施

平成9年12月22日
気象庁予報部

数値予報G P Vの配信要素の改善について

平成10年3月に実施する、気象業務支援センターが行うオンライン配信サービス（全国版）及び仙台管内のオンライン配信サービス（地方版）の一般気象データ回線で配信している数値予報G P Vの改善は、以下のとおりです。

今回、仙台管内で実施する改善は平成9年3月に東京管内で実施した事項と同じであり、同様に平成11年3月には札幌管内の一般気象データ回線で実施する予定です。

G S M海上、G S M航空、天気予報ガイダンス及び波浪関連G P V（沿岸波浪及び近海波浪）については、配信要素の変更はありません。

改善する電文形式は「配信資料に関する技術情報第10号」（平成8年12月16日）別紙4「気象業務支援センター（地方）へ配信する数値予報G P Vの電文形式」（標題では「（地方）」となっていますが全国版で配信する電文も含まれています。）に掲載しています。

1 地方版の改善事項

① R S M上層（ヘッダー：KUR@ i i → VUR@ i i）

950hpaを追加し、要素は他の面と同じとする。

ω をすべての層に入れる。

Ps（海面更正気圧）はR S M地上に入れる。

T-Td（露点差）に替えてRh（相対湿度）を配信する。

その他は、全て現行と同じ。

② R S M地上（ヘッダー：KVR@ i i → VVR@ i i）

PsをR S M上層から移す。

T-Td（露点差）に替えてRh（相対湿度）を配信する。

その他は、全て現行と同じ。

2 全国版の改善事項

地方版の改善事項（①及び②）に加え、以下の改善を行ないます。

③ G S M週間（ヘッダー：KKGW@ i i → VKGW@ i i）

時間間隔を24時間から12時間に細かくする。

格子間隔を細かく（225km→120km（60°N））する。

Cld（雲量）を追加する。

T-Td（露点差）に替えてRh（相対湿度）を配信する。

その他は、全て現行と同じ。

④ RSM航空A (ヘッダー: KKRA50→VKRA50)

T=03, 06を追加する。

格子間隔を細かく (120km→80km (60°N)) し, 配信領域を拡大する。

地表の要素を拡充する。

700hpaの ω (鉛直P速度) を追加する。

その他は, 全て現行と同じ。

⑤ RSM航空B (ヘッダー: KKRB50→VKRB50)

格子間隔を細かく (225km→80km (60°N)) する。

各層に相対湿度を追加する。

地表にRain (降水量), Cld (雲量) を追加する。

925hpa及び400hpaを追加し, 要素は他の面と同じとする。

700hpaの ω (鉛直P速度) を追加する。

その他は, 全て現行と同じ。

図1 RSM上層, RSM地上及びRSMガイダンス資料

VUR@ (RSM上層)
 VVR@ (RSM地上)
 KQA@ (RSMガイダンス)
 ※細線の緯経度は実際の地図と多少相違している
 [ハatched box] は拡大領域を示す

